

中部盲学校PTA 連合会総会

今年度の総会は9月13日、主幹校愛知県岡崎盲学校のもと岡崎市で開催されました。中部地区の6県9校から校長先生や会長など27名が参加しました。

各校のPTA活動について報告があり、その後協議を行いました。現状はどの学校も会員数の減少に伴い、多くの活動を計画することが難しく、居住地も広域のため会員同士の交流や継続した活動に苦労しているとのことでした。取り組みとして学校との連携や行事内容の見直しをしたり、学校行事後の理事会実施など、それぞれ工夫をして楽しく活動していました。総会後は、柔道パラリンピックで活躍された広瀬誠氏の講演会がありました。

子供達には自分を好きになってほしい。そのためには好きなことをみつける、努力する喜びを知る、自分のことは自分で決めることを大切にしてほしいと話されていました。ぜひ子供たちにも伝えたい講演でした。

(報告 横山 葉子)

部活動の活躍

- スポーツ部 ・第4回北信越盲学校フロアーバレー大会 3位
・第12回北信越盲学校サウンドテーブルテニス大会 団体 準優勝 個人戦3位 奥 瑞樹
- 和太鼓 第39回御山まつり

表彰

- 第4回目が見えない・見えにくい私だから考え付いた「とっておきのアイデア」コンテスト
盲学校 実現可能なアイデア賞 小6 徳田 健太郎
- 第25回NHKハート展 入選 小3 S・R
- 第42回全国盲学校珠算競技大会 中学部 第4位 中1 横山 莉世
- 第39回石川県児童生徒俳句大会 入選 小3 S・R 小5 酒井 翔太
- 第33回石川県中学生学校給食献立コンクール 優良賞 中2 奥 優樹
- 金沢市読書感想文コンクール 優良賞 小6 徳田 健太郎 佳作 中1 横山 莉世
ホッと賞 小5 酒井 翔太 中2 奥 優樹
- ホッと・アーツと展 入選 高1 S・Y
- 令和2年石川県書きぞめ展 秀作 小2 福田 春馬 入選 小5 酒井 翔太
- 東京2020オリンピック聖火リレー聖火ランナー 中1 横山 莉世

この一年間の活動を振り返って

今年度も、あっという間に過ぎた一年間でした。例年と違った活動と言えば、県特P連の研修会に参加させていただいた事です。盲学校は主に視覚障害であって、知的障害がなければあまり参考にならないのか、と言うとそんな事もなく、どんな障害であっても、もっと言えばどんな人にもプラスになる研修会でした。

例年の活動では、奉仕活動とパーバキュー大会、文化祭ママの店を、児童生徒、職員や保護者皆さんの協力で楽しく終える事が出来ました。

年齢も住んでいる場所も様々なのが本校の特徴ですが、卒業しても、蜘蛛の巣のように横にも縦にも繋がりに続けていける土台を、来年度もこの育友会活動を通して築いていけたら良いと思います。

(酒井 亜紀子)

育友会だより 第70号

石川県立盲学校育友会
令和2年3月10日(火)発行
〒920-0942
金沢市小立野5丁目3番1号
TEL 262-9181
FAX 222-0214

おおぞら

「奇跡」

育友会会長 横山 葉子



平成から令和に年号が変わり、早いもので今年度も残りわずかとなりました。人前で話すのが苦手な私に会長なんてできるのかしらという思いもあったのですが、何とか無事に終えることができそうです。これも皆様のお力添えやサポートして下さったおかげです。今はただ感謝の気持ちで一杯です。大変貴重な経験になり、充実した一年でした。

皆さんは心に響いた言葉はありますか？私はアルバート・アインシュタインの名言で「人生には二つの生き方がある。」一つは、奇跡などおこらないと思いきること。もう一つは、一つ一つのすべてが奇跡だと思いきること。という名言です。これは娘が2歳半で治療を始めたときに、主治医の先生から頂いた「網膜芽細胞腫のこどもをもつ家族の会」の冊子の片隅に書かれていて、心に響いた言葉です。何かあったときには、この言葉を思い出すと勇気とパワーをもらえます。

この度娘が、東京2020オリンピック聖火ランナーに選ばれました。自己PRに、人々に勇気と自信を与えられるランナーになり、自信を持って一生懸命走りたい。今は苦しい思いをしている人にも、平和な暮らしをしている人にも、これから頑張ろうという気持ちになってほしい。また、世界に発信し、世界と繋がりたいと思うと書いたそうです。その思いが、選考委員の方々の心に響いたのであればうれしく思います。本当に奇跡的なことです。そして私も伴走者として一緒に走ります。二人で頑張りたいと思います。

最後になりましたが、今年度の育友会活動も無事終えることができました。これも、役員をはじめ保護者の皆様、先生方のご協力のおかげと感謝しております。ありがとうございました。そして、本校ならびに育友会のますますの発展を目指して、保護者の皆様のご協力をお願い致します。

「一期一会に感謝」

石川県立盲学校長 江川 周一



卒業生、修了生の皆さん、おめでとうございます。

児童生徒21名で新年度がスタートして、この3月には7名の児童生徒が新たな門出を迎えます。それぞれ在籍年数は違いますが、この盲学校で共に学び、励まし合い、頑張った学校生活を過ごしたことは、これからの人生で大事な思い出となります。先生は、一期一会(いちごいちえ)という言葉に大事にしています。一期一会という言葉は、茶道に由来することわざです。「人が人生の中で出会える人は限られており、そうした人と人との出会いに感謝して、その時を大切にしよう」という意味があります。私自身、4月に着任してから、児童生徒や保護者、教職員、同窓生、地域の方など、たくさんの方々と出会うことができました。先生は、新しい門出を迎える7名の児童生徒との出会いに感謝し、「おめでとう、これからは頑張れ」とエールを送ります。

これからの人生には、いろいろなことがあると思いますが、仲間や家族を大切に想い、その時その時を大切にしながら自分らしく生きて欲しいです。

先生は、これからは皆さんのことを応援しています。

卒業生へのメッセージ

「卒業する君へ」

高等部 青木 三枝子

2歳から通った盲学校を卒業する青木薫君、卒業おめでとうございます。
振り返るといろいろあったけど、あっという間の16年でしたね。
トランポリンが大好きで、先生と一緒にたくさん跳びました。いっぱい遊んでもらうために「あっ！」と返事ができるようになったし、補助輪付きの自転車に乗れるようになりましたね。地域の小学校で遠足やプールでの交流も楽しみました。 中学3年間は担任の先生が同じだったこともあり、がっつりしっかり過ごしましたね。特に3年生の1年間をかけて取り組んだ「坂めぐり」。先生の尽力もあります立派な結果が残せました。
盲学校は、担任以外の先生も先輩たちもたくさん声を掛けてくださるアットホームなとても恵まれた環境でしたね。なかなか他にはない素晴らしい学校です。4月からはここでの生活を糧に心の拠り所として、次の世界へ進まなければなりません。盲学校へ通うことが当たり前になっていた君にはとても大きな変化となります。なかなか大変なことかもしれませんが、前を向いて、少しずつでも前進していきましょう。疲れた時は、立ち止まり休んでもいいでしょう。そして、元気になり力が出たのなら共に進み始めましょう。発語のない君の真意は伝わりにくいですが、これからの長い人生、いろんな人とかかわりを持ち、少しでも充実した楽しい時間を過ごせることを、君らしくにこやかに穏やかに暮らせていくことを願っています。

「小学部卒業にあたり」

小学部 徳田 正則 徳田 沙織

健太郎、小学校卒業おめでとう。
未熟児で生まれ、「片方の目が見えるかもしれない」という可能性を信じ、目の手術のためヘリコプターで東京まで行った事は今でもはっきり私達は覚えています。あれから12年間あっという間でした。
保育園に入園し毎日楽しく遊んでいる姿や、興味をもちピアノを習い始め毎日一生懸命練習していました。そして卒園する時には素晴らしい演奏を皆に聞かせてくれ本当に感動しました。
6年前保育園の友達とも別れ盲学校への入学となりました。ピカピカの1年生だった頃が昨日のこのようです。
盲学校入学と同時に親元を離れ寄宿舎生活が始まりました。ついこの前まで保育園児だった子がいきなり寄宿舎生活なんてできるのかと、私達はとても心配でした。もちろん、健太郎も辛かったと思います。
寄宿舎生活が始まった当初は、病気になれば夜中でも七尾から走らなければならなかったり、本人も夜中のトイレが間に合わず失敗して落ち込んだり、私達も慣れないことに四苦八苦しました。突然の環境の変化や寂しさを乗り越え本当によく頑張ったと思います。今では、一人でできることがいろいろ増えました。トイレ・お風呂等や時には茶碗を洗ってくれたりお手伝いしてくれます。
また、学校生活では、勉強と同時に点字も習得したり、運動会や文化祭で活躍する健太郎の姿を見る度に、一年一年健太郎の心と体の成長を感じました。本当に嬉しく思っています。
そして、週末家庭で過ごす時は、町の行事に積極的に参加しています。特に祭りの時は太鼓を一生懸命本番まで練習し頑張っています。
健太郎がこんなに成長できたのは、学校や寄宿舎の先生方のご指導があったおかげだと感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。
4月からはよいよ中学生になります。これからはもっと辛く厳しい事が今まで以上に待ち受けているでしょう。健太郎が6年間学んだことを生かし、新たな気持ちを胸に、友達をたくさん作って楽しい中学校生活を送ってください。
私達は、いつも健太郎のそばで見守って、応援しています。
一緒にがんばりましょう。

県特P第2回研修報告会

石川県立いしかわ特別支援学校にて第2回研修会が開催されました。
はじめに、石川県教育委員会学校指導課の杉江哲治氏より「これからの特別支援教育について」と題して講話を頂き、その後車いすバスケットボールパラリンピック日本代表宮島哲也氏に「車いすバスケットを通して」と題して講演頂きました。
宮島氏は中学生の時にケガを負い車いす生活になりました。目標をあえて高く持ち、自らを奮い立たせ一生懸命練習し日本代表に選ばれました。一歩踏み出した事で新しい世界へ行けるので「夢を持つことの大切さ」をお伝え下さいました。
また、令和元年度優良PTA 石川県教育委員会の表彰を頂きました。
少人数の中で会員同士協力し合い、活動や行事を行っています。今後とも学校と連携を深め、児童生徒がより良い人生を歩んで行けますよう支えていきたいと思ひます。 (報告 島田屋 美智留)

文化祭ママの店報告



文化祭ではママの店を出店し、恒例のうどん、カレーライス、カレーうどん、おにぎりを販売しました。今回もたくさんの方にご来店頂き、そして楽しく食事をしている姿を見ることができ、とてもうれしく思いました。ありがとうございました。また、今年度からコーヒーの販売もしました。バリスタ風に完璧に着こなしを整えてきた先生、盛り上げ方が流石だと感心しました。



ここで発表！ママの店売り上げランキングベスト3！1位うどん・2位コーヒー・3位カレーライス。なんと、コーヒーがカレーライスを超えました。結果まで出すなんてやはり流石です。そして、今回も受付、食器洗い、準備などをして頂いた先生方、金大のボランティアの学生さん達ありがとうございました。人数が少ない育友会にとって、とても大きな力となります。来年度も素敵なママ達と楽しい店になるよう頑張ります。皆様のご来店心よりお待ちしております。

(報告 奥 幸代)

誘導点字ブロック啓発活動

2月から、児童生徒たちは、誘導点字ブロック啓発のポスター掲示のお願いや、チラシ、ティッシュ配りを小立野地区、石引商店街で行っています。

今年は、例年行っている金沢駅でのティッシュ配りが中止となりほっこりした表情の点字啓発ゆるキャラ白杖の妖精「つえぼん」(写真)と会えないことを残念がる子どももいました。また、JR 金沢駅の構内放送を楽しみにしていた児童もただけに、来年の活動を楽しみにしたいと思ひます。

今後とも、石川県視覚障害者協会をはじめ皆様と、点字ブロックの大切さを伝えていきたいと思ひます。



